

特別な支援を必要とする子供に対するベストミックス

～ 一人一人の特性に応じた、学びを充実させるICTの効果的な活用事例 ～

東濃教育事務所

障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服するために…

☆読むことが苦手な子に

学習者用デジタル教科書や
音声教材の活用

拡大・縮小機能
フォントの変更
行間の調整
背景色や文字色の変更・反転
音声読み上げ機能
ふりがな・分かち書き表示
ハイライト表示 など

- ・「こうすると読みやすい」という自分に合った方法を見つけ、それを使うことで成功体験を積み重ねることができます。
- ・音声読み上げにより、正しい音読支援や内容理解を助けます。

☆書くことが苦手な子に

タブレットを使っての記入



手書き入力(タッチペン、指)、
キーボード入力(ローマ字、
かな)、五十音表、フリック入
力、音声入力 など

- ・特性や発達段階等に応じて、「これなら書けそう」という入力方法を使うと、表現できることが増えていきます。
- ・修正や追加、消去などが簡単にできる手軽さが、苦手さの軽減になります。

☆見るものが苦手な子に

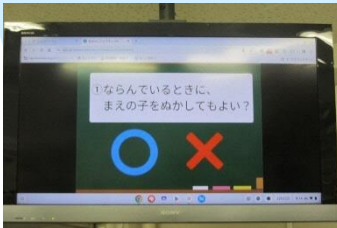
アプリを使った
視機能向上のためトレーニング



- ・段階的な指導や即時評価、ポイント蓄積などにより意欲を高め、楽しみながら力をつけることができます。

☆聞くことが苦手な子に

大型提示装置の活用



- ・他のことが気になって集中して話が聞けない子も、情報を視覚化することで理解しやすくなり、興味をもちやすくなります。

☆話すことが苦手な子に

カメラ機能で撮影したものをテーマにしたお話タイム



- ・自分が話したいことを話すため、詳しく話すことができます。
- ・質問されたことに答えることでスムーズなコミュニケーションとなり、相手意識を高めます。
- ・家庭との連携も図られます。

☆注意集中が続かない子に

特性に応じたアプリの活用

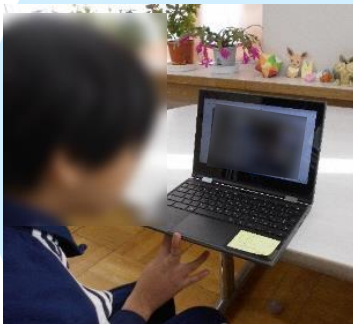


- ・大好きなキャラクターのアプリを使うことで、時間いっぱいまで歯磨きをすることができます。

自分に合った方法で 自分のペースで

教科等指導の効果を高めたり情報活用能力の育成を図ったりするために…

★視覚化による導入や ふり返りの工夫

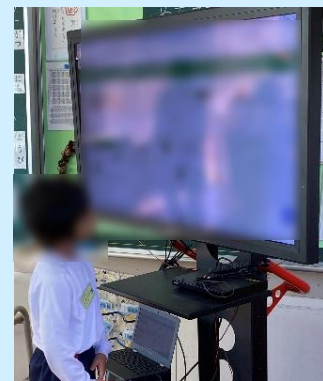


- ・活動の様子を動画で撮影して振り返ることで、自己理解につながります。



- ・大型提示装置に映すことで注目でき、学習活動を焦点化し、仲間と共通理解しながら学習を進めていくことができます。
- ・仲間からの評価や先生からの評価により、達成感や充実感を高めます。

★協働学習支援ツールの活用



- ・共同閲覧モードで見ること、仲間のよさを見つけたり、よいところを真似したりしながら、自分の考えを深め広げることができます。
- ・大きな画面で仲間の作品を見ることで、比較しやすくなります。

★テレビ会議システムを使用した交流

- ・特別支援学校との居住地校交流や学校間交流では、オンラインでの交流も行われるようになってきています。障がいの有無や状態にかかわらず、誰もが互いに尊重し合い、一人一人の能力を最大限に発揮することができる「共生社会」を目指した交流及び共同学習になります。

活用場面や事例は「特別支援教育におけるICTの活用について」(文部科学省)や「特別支援教育でICTを活用しよう」(国立特別支援教育総合研究所)、「教育の情報化に関する手引(追補版)」(文部科学省)を参考にしています。